

## 第9回青森県市町村合併推進審議会会議録

日 時 平成19年3月27日(火) 13:30開会 15:00閉会

場 所 青森グランドホテル2階「桃山の間」

出席者(6名) 会長:末永 洋一  
委員:杉澤むつ子委員 辻 琢也委員 藤川 幸治委員  
平出 道雄委員 良原 せつ委員

欠席者(4名) 委員:北村真夕美委員 福島 弘芳委員 前山総一郎委員  
松井 フミ委員

説明等のために出席した県職員(6名)

青森県総務部長	海老原 諭
青森県総務部次長	青山 祐治
青森県総務部市町村振興課長	平沢 克俊
青森県総務部市町村振興課課長代理	田澤 俊明
青森県総務部市町村振興課市町村合併推進グループリーダー	八戸 良城
青森県総務部市町村振興課市町村合併推進グループ主幹	宮古 暁

会議次第 1 開 会  
2 議 題  
(1) 検討対象市町村(今別町・蓬田村・外ヶ浜町)の状況について  
(2) その他  
3 閉 会

議事の概要

### 1 開 会

(司会) 只今から、第9回青森県市町村合併推進審議会を開催いたします。

本日は、審議会委員10名のうち6名の委員の皆様のご出席をいただきまして、会議が成立していることを報告いたします。

ここで、本日配布しております資料を確認させていただきます。

まず、次第になります。次に、資料1-1が、今別町・蓬田村及び外ヶ浜町の概況。資料1-2が、今別町・蓬田村・外ヶ浜町の現況について。そして、資料3が3町村の財政比較分析表ということで、3種類の資料となっております。

それでは議題に入りますが、当審議会では、会長が議長を務めることとなっておりますので、この後の議事進行については、末永会長、よろしくお願ひいたします。

## 2 議 題

### (1) 検討対象市町村（今別町・蓬田村・外ヶ浜町）の状況について

（末永会長）暫くの間、議長を務めさせていただきます。

今も司会の宮古主幹からありましたが、年度末、大変お忙しい中ありがとうございました。

それでは早速、議題に入らせていただきます。

本日最初の議題、最初の議題といっても、1とその他になっておりますが、1の方でございますが、今回の検討対象市町村は、今別町、蓬田村、外ヶ浜町でございます。

前回の第8回の審議会において、これらの検討対象市町村に関しましては、これらを会長である私が回って、それぞれの町・村の首長さんの、村長さん、町長さんのご意向、合併に関するご意向を確認しようということになっておりましたので、まずその結果を最初に報告させていただきたいと思っております。よろしくお願ひします。口頭で申し上げます。

2月22日、私とそのほか事務局の市町村振興課八戸グループリーダー、それから今日進行をやっていただいております宮古主幹の3名で、蓬田村、外ヶ浜町、今別町の順で、それぞれ町長さん、あるいは村長さんにお会いしました。

まず、蓬田村の方にご訪問いたしました。古川村長さんといろいろお話をさせていただきましたが、古川村長さんからは、次のような御意見をいただいております。これは、新聞報道で、あるいはご存知かと思ひますが、もう一度といひますか、確認のために私から申し上げます。

1つは、財政が厳しいという理由だけの合併というものは、むしろこれから更に町村の過疎化の進行、あるいは町村の集落コミュニティですね。そういったものの崩壊に繋がることがあるので、繋がる危険性があるので反対であるということです。つまり、財政オンリーで進めることに対しては反対であるということです。そういう2つの条件といひますか、そういったことが明確でない限り、反対であると。

ただし、将来的に、仮に合併するとすれば、日常の生活圏からみても、あるいは過去に実施した住民アンケートの結果からしても、青森市との合併を考えたいということでもございました。

以上、2点であります。

次に、外ヶ浜町森内町長さんを訪問いたしました。御承知のように、外ヶ浜町は、旧法下において、旧蟹田町、旧平館村、旧三厩村、この3町村が合併して誕生したわけでありましたが、人口が3町村合わせても1万人未満であること。あるいは、合併というものを考える場合、例えば蓬田あるいは今別等との合併というものも考えられるということがありまして、今回、意向の確認ということで出向いたわけでありまして。

ただ、森内町長さんは、御承知でしょうが合併後の平成17年4月に就任されております。その森内町長さんとお話しした結果、大体2点の点を申し上げたいと思ひます。

将来的には、青森市との非常に広域的な合併を考える必要があると思ひているが、旧法下で合併したばかりの事情等を考えると、まずは外ヶ浜町と今別町、あるいは蓬田村を含む上磯地区、この3町村が合併し、その後に青森市との広域合併を目指すのが現実的な選択と考えています、というのが1点でありました。

それからもう1つは、これは飛び地合併になっております。三厩村が飛び地です。飛び地合併になったのは、当時の事情によるものと認識しているが、飛び地合併になった所において、三厩

地区の住民の不安や苦情がないように十分配慮しているということもおっしゃっていたということでもあります。

以上2点が、外ヶ浜町の森内町長さんから聞いたところでもあります。

3番目に今別町の小鹿町長さんにお会いいたしました。小鹿町長さんからも2点、1点といってもいいんですが、次のようなお話がありました。

合併は必要であると考えていると。将来的には。ただ、日常生活圏、この日常生活圏というのは、今別町は青森市との関係は非常に強いそうですね。例えば、青森市には8千人、今別町出身者がいるということもおっしゃっていましたが、そういう日常生活圏やあるいは北海道新幹線、これが伸びてくると、新青森駅と、奥津軽駅が今別に出来ますので、そういうことの利用促進というものを考えれば、青森市との広域合併というものを我々は望ましいと考えているということです。

そういうことからすれば、今別町が外ヶ浜町と合併するという考えは、これは無いというふうにははっきりおっしゃっていたということでもあります。

以上、3人の町長さん、あるいは村長さんの意向というものは三者三様ということになりますが、すぐということではありませんが、将来的な合併の姿としては、青森市との広域合併が1つの方向というふうには考えられるかなと思います。

ただそこに行くまでに、外ヶ浜町の森内町長さんのように、まずは上磯地区の合併を現実的に選択した後というふうには考えていらっしゃる場合がありますし、あるいは、今別町の町長さんのように、そういうことではなくて、まず青森市だと。それから、蓬田村の村長さんのように、コミュニティの崩壊、あるいは過疎化の進行というふうなこと、そういったことをきちんと解決した上で、それらの歯止めというものを十分に考えた上で、青森市との合併というものを考えるというふうなことで、それぞれニュアンスが違いますが、いずれにしても、将来的には青森市との広域合併が1つの方向として考えられるという印象を持ちました。

同時に、もう1つは、御承知のように小泉改革以降の三位一体改革の中で、大変、町村が大変苦勞されている。それぞれ、大変ご苦勞されております。三者三様に本当に頑張っておりますが、大変厳しい財政状況にあるのは確かだということ、あるいは、現実的に過疎が進行しておりますし、あるいは、産業基盤等も強いものがないという中で、大変厳しい状況に置かれているという印象も同時に持ったということです。

以上が、3町村の訪問結果の概要ということでもあります。

ここで皆さん方から御質問いただいてもよろしいのですが、次に本日は、今別町、蓬田村、外ヶ浜町の合併の方向性についてということで、事務局の方で用意した資料がございますので、事務局の方から生活圈等々の概況を説明していただき、その後に、私の今申し上げたことも含めて、御意見、御質問をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、八戸リーダー、よろしくお願ひいたします。

(県：八戸GL) それでは、資料1-1をご覧くださいと思います。

概況でございます。

まず1ページの合併協議の状況でございます。

旧法下における合併協議の状況ですが、東津軽、ここは東津軽5町村による合併協議というものがまずスタートいたしまして、上磯5町村合併研究会というものが設置されました。これが平

成 13 年 6 月であり、報告書が取りまとめられております。

その後、東津軽 5 町村任意合併協議会が出来まして、14 年 7 月でございますが、3 回、合併協議会が開催されまして、地域づくり構想というものが取りまとめられております。

そして、各町村において地域づくり構想をもとに住民説明会を開催いたしまして、合併の枠組みを含めて検討していこうということになりまして、任意協議会が解散されました。

その後の過程の中で、この 5 町村の枠組みの中から、今別町、蓬田村が離れまして、結果的に 3 町村の枠組みで合併協議をすることになったということでございます。

平成 16 年 8 月に東津軽三町村合併協議会というものが設置されました。12 回、合併協議会が開催されまして、合併協定書調印を経て、議案可決されました。平成 17 年 3 月 28 日に外ヶ浜町が誕生しております。

以上が、簡単ですが合併協議の経緯でございます。

続いて 2 ページでございます。

平成 17 年 11 月から 12 月にかけて未合併町村長への意向調査というものを行いまして、その結果をまとめております。

ちょっと古い回答内容になってしましますが、

今別町は、まず、新法期間内を目途に青森市との広域合併を目指したいという意向をこの時から表明しております。

蓬田村、外ヶ浜町は、中長期的な課題として、これは 22 年度以降というお話をされていましたが、将来的な課題として、近隣との合併が必要であるという認識でございます。

3 ページが地域の沿革、これは省略させていただきます、4 ページ、お願いいたします。

人口の推移でございます。国勢調査結果によって、ここ 20 年間で今別町では 46%、蓬田村では 21%、外ヶ浜町では 45%という大きな減少となっております。3 町村を足しても 41.6%の減少となっております。

5 ページの将来人口の推計。平成 17 年から 42 年、今後 25 年間の人口推計によりますと、今別町では 57%の減、蓬田村 38%、外ヶ浜町 44%、いずれもほぼ半減という姿が推計されております。3 町村を足しても 25 年後は 8 千人程度という推計がされております。

下の世代別人口でございますが、3 町村ともに 14 歳以下の人口が大きく減少しております。65 歳以上の人口が増加しておりまして、少子高齢化が顕著であり、15 歳から 64 歳の生産年齢人口もそれぞれ大きく減少しております。

続いて 6 ページ。世帯数は蓬田村はほぼ横這いに推移しておりますが、今別町、外ヶ浜町は、それぞれ世帯数は減少しております。

昼夜間人口比については、3 町村ともに流出超過という状況でございます。

7 ページ、交通の状況です。外ヶ浜町から今別町は 10 分。今別町から外ヶ浜町が、これは旧三厩から今別町は車で 10 分。今別から外ヶ浜町では車で 20 分。外ヶ浜町、旧蟹田ですね。旧蟹田から蓬田村までは車で 15 分。蓬田から青森までは 35 分と。大体、旧三厩から青森市までは 80 分、約 1 時間 20 分見込んでおります。

公共交通機関は、JR 津軽線で、平日 5 往復、土日 5 往復。これが、外ヶ浜、今別です。今別、外ヶ浜も 5 往復でございます。

青森市、旧蟹田、外ヶ浜間は、平日 9 往復、土日 9 往復という状況でございます。

続いて 8 ページは、通勤・通学の状況でございます。

まず、通勤の状況ですが、今別町に住んでいらっしゃる就業者、この方のうち、18.5%が町外で就業しているという状況であります。8割が今別町に住んで、今別町で働いているという状況でございます。

町外に働きに出ていらっしゃる方の6%が外ヶ浜町の旧蟹田、平館地区、5%が旧三厩地区、それから、青森市の順になっております。

蓬田村においては、36%が村外で従業しており、青森市 29.8%、外ヶ浜町の旧蟹田、平館地区という順番でございます。

外ヶ浜町のうち、旧蟹田、旧平館地区 17.8%が町外に働きに出ていらっしゃいますが、それは青森市、蓬田村、今別町の順番になっております。

同様に旧三厩地区を見ますと、11%が地区外に働きに出ておりますが、これは今別町、青森市、という順序になっております。

こう見ますと、今別、外ヶ浜、どちらかというところ約8割、地元就業者が多いわけですが、青森市への通勤というのはそんなに多くないなという感じがしております。これはむしろ、青森市への通勤というよりも、青森市の方に転出してしまった方も多いのかなという状況でございます。

それから、蓬田村を見ますと3割が青森に通勤されている。近接しているという状況でございます。

9ページの通学の状況です。

今別町に住んでいる通学者の36.9%が町外、これは主に青森市の高校に通学しているということになります。残り、63%ほどは、これは15歳以上ですので中学3年生も含めますけども、今別高校が中心となっております。

蓬田村においては、88%が村外に通学。これは、そのうち青森市が80%、今別町が6.5%です。

それから、外ヶ浜町のうち、旧蟹田・平館地区は、85%が町外、そのうち青森市が7割、今別町が約1割という状況です。

旧三厩地区では85%が地区外に通学しておりまして、その構成比は、青森市、今別町、ほぼ半分ずつということですが。

10ページ。今度は今別町に働きにいらしゃっている方、これが約10%ほどでございます。その構成比が外ヶ浜町、三厩地区が5%、青森市が2.6%、旧蟹田・平館が1.6%、蓬田が0.4%、この順番になっております。

蓬田村においては、15%が村外からの通勤で、青森市、旧蟹田・平館地区、今別の順番になっております。

外ヶ浜町の旧蟹田、平館地区では、13.8%が町外から通勤されておりますが、その構成比は青森市、今別町、蓬田村の順でございます。

旧三厩地区では、12%が地区外から通勤されておりますが、その構成比を見ますと、今別町、青森市、旧蟹田・平館地区、この順番になっております。

11ページ、通学の状況です。

まず、今別町で通学する15歳以上の方は、41%、町外から通学しております。これは今別高校に通学しております。その内訳は、外ヶ浜町旧三厩地区が19%、旧蟹田・平館が15%、蓬田2%、青森市約1%となっております。

次、12ページ、購買動向でございます。

殆どの買い物の多くは、青森市が占めております。8割以上は青森市からということになっております。これが大体、今別、蓬田、外ヶ浜も大体買い物は青森市が中心です。2番目は五所川原市という所も若干ございます。

それから15ページに入りまして、受診の動向です。今別町、蓬田村、どちらも通院、入院、青森市というのが比率では高くなっております。それに対して、外ヶ浜町の旧蟹田・平館地区は、通院は地元の蟹田病院が6割を占めております。入院は、やはり青森市が多いわけです。旧三厩地区は、通院、入院ともに青森市が多いという状況でございます。

続いて16ページ、産業別人口です。

この上磯3町村第一次、第二次、第三次、大体シェアが同じくらいで、バランスが良いといえますか、それぞれ同じようなシェアを占めておりますが、若干、特徴的なことを申し上げますと、今別町は、どちらかという、第二次産業の比率が高い。これは、建設業が比較的比率が高いといえると思います。蓬田村は、第一次産業就業者が30%ということで、ほかの2町よりはシェアが高いということで、ここは農業従事者が比較的高いということがいえると思います。

それから、外ヶ浜町は、これはどちらかという三次産業の比率が高いわけですが、小売業、サービス業の比率が高い。若干、そういう特徴が出ているかと思えます。

続いて、広域行政の状況です。ゴミ処理、し尿処理、こちらは青森地域広域事務組合で、青森市と平内町を構成員として共同処理しています。消防事務組合は、青森地域広域消防事務組合ですが、これは平内町は入っておりません。青森市との共同処理です。

以上が資料の1-1でございます。

続いて、資料1-2、行財政の状況でございます。詳しい説明は省略させていただきますが、この1ページ目のまず下の表に、それぞれの首長、議員の任期が書かれております。

今別町長さんの任期が平成21年10月、蓬田村長さんは21年11月、その前に外ヶ浜町町長選が21年4月、任期が21年4月になっておりまして、いずれも21年度に選挙を迎えるという状況になっております。

議員の方を見ますと、今別町議会議員は、任期が平成20年3月。蓬田村は、今度の統一地方選挙が行われます。外ヶ浜町の議員選挙は、ついこの間行われまして、18名から14名になっております。

以上が、選挙日程の関係でございます。

2ページ以降は省略させていただきたいと思えます。

後ほど、質問等があれば、そちらの方で引用させていただきたいと思えます。

続いて、財政の状況です。資料1-3をご覧くださいと思えます。

まず1ページ目、今別町の財政指標でございます。財政力指数は0.17ということで、全国市町村の平均値を下回っております。財政構造の弾力性を見る経常収支比率は、100%を超えておりまして、厳しい状況でございます。103.2%、これが16年度でございます。その後の推移を見ましても、17年度が102.9となっております。18年度の見込みでは100.2ということで、若干下がってはおりますけれども、依然として100を超えているという状況でございますので、かなり厳しい、余裕のない財源状況となっております。

その主な要因としては、人件費の比率が高いわけですが、職員数はほぼ並ですが、平均年齢が49歳くらいで非常に高いという状況がございます。それが人件費を高くしている要因でございます。

一部事務組合の負担金の比率もかなり高く、それが経常収支比率を押し上げているという状況だと思います。

ここで、その小さいグラフの下の方に、類似団体内順位とございますが、これは、全国との比較ですが、89のうちの81番目です。

次に、公債費負担の健全度、起債制限比率でございます。12.7%、これが16年度。17年度が12.5、18年度が12.1と、これも徐々に下がっております。公債費のピークは大分過ぎておりまして、今後はかなり下がっていくとのことで、近年は、大規模事業もかなり抑制しておりますので、この比率は大分下がってくるのかなと思われま。

右側の方は、将来負担の健全度ということで、人口一人あたりの地方債現在高。これは、類似団体と比較しても低いということです。

ラスパイレス指数は、これも類団よりも低くなっておりまして、人口1,000人あたりの職員数をみますと、類団並といえると思います。

こういう財政指標になっておりますが、一般会計の決算の見込みを見てみますと、当面、一般会計は、赤字は回避できるのではないかという見通しが立てられておりますが、今別町は、特別養護老人施設の特別会計をもっておりまして、そちらがかなりの赤字、単年度6千万以上の赤字が見込まれておりまして、この赤字をどう解消していくかというのが課題となっております。

現在、これを民営化するという方向で進んでおりますが、債務はそのまま継承することになりますので、今後赤字が大きく増えるという要素は減るかもしれませんが、これまでの赤字の累積、これを一般会計でどう解消していくかというのが1つの課題かと思えます。

それでは2ページ、蓬田村の状況です。

財政力指数は0.18とほぼ類似団体並でございます。経常収支比率は、やはり98.9とかなり高い状況で、17年度は、101.5になっており、100を超えてしまいました。ただし、18年度、今年度の見込みでは100を割るのではないかと。それでも、100近辺を推移していくという状況でございます。これも、要因としては、今別同様、人件費の経常収支比率が高止まりになっておりまして、それは職員数とか給与水準は類団よりは低いんですが、どうしてもやはり職員年齢が高いということで、一人あたりの人件費が高いという形になっております。一部事務組合の負担金も今別同様、かなり高い。そういったことで経常収支比率を押し上げております。

それから、起債制限比率を見ますと12.8%、これは今後、17年度以降、徐々に上がっていくという見通しになっております。17年度が14.2%、18年度の見込みが14.4%ということで、上がっていく状況が見込まれております。これは、過去にふるさとセンターとか、ライスセンターとか、こういった大規模事業を実施しましたので、丁度その元利償還がピークを迎えているという状況でございます。

右側の将来負担の健全度は、一人あたりの地方債現在高でみますと、類団よりは低いという状況です。

ラスパイレス指数はほぼ類団並みです。

人口1,000人あたりの職員数、これは類団よりも少ないという状況でございます。

今後の村の財政状況を見通しますと、ここは比較的財政調整基金がまだ2億8千万ほどございまして、この取崩しで当面のいっていいという状況で、それを取崩していくことによって、赤字というのは回避されていくものと見込まれます。ただし、それも交付税の動向によってはどうなるかという状況かと思えます。

以上が蓬田村でございます。

3 ページが外ヶ浜町です。

財政力指数は 0.17 と、類似団体でもかなり低い状況でございます。

経常収支比率、これも 99.7 とほぼ 100 に近いのですが、これは 16 年度分で、17 年度も 99.7 と横這いです。18 年度の見込みが若干下がって、96 くらいに下がりそうだという状況でございます。ここも、今別町、蓬田と同様、人件費、そして一部事務組合の負担が高い。類団 120 団体のうちの 117 番目という状況でございます。

起債制限比率 16.6%です。これが 18 年度の見込みですと 15.9 に徐々に下がっていく見込みになっています。ピークは過ぎておりまして、徐々に減っていくという状況が見込まれています。

外ヶ浜町も当面、赤字というのは回避できる見通しでございますが、合併に伴いまして、一般廃棄物処理施設、大規模事業が見込まれており、着手する予定です。それから現在、町営住宅の建て替えも行っておりまして、このへんの元利償還、今後増えていく見込みがございます。その推移を注視していく必要があると思います。

それから、下水道事業、これが今後進むことによりまして、一般会計からの繰出金というのがかなり急速に上がっていくのではないかと。それも、収支状況に悪い影響を与えていくのではないかと見通しが立っています。

健全度。人口一人あたりの地方債現在高、これはかなり類団よりも高くなっております。ほぼ倍近い形になっております。これは、段々減っていくのかと思いますが、さっきいいました大規模事業も控えておりますので、その他の事業をなるべく抑えていくということが課題かと思えます。

ラスパイレス指数は、類団よりも低くなっております。

人口 1,000 人あたりの職員数、これは合併したばかりでございますので、大分職員数が膨らんでおります。これを類似団体並みに下げていくということで、ある程度合併効果が見込まれると思います。現在は、1,000 人あたり約 20 人という状況で膨らんでいる状況でございます。

以上が財政指標でございます。

以上で、こちらかの説明を終わらせていただきます。

(末永会長) どうも、八戸リーダー、ありがとうございました。

只今、八戸リーダーから、3 町村の概況、特に人口の問題、あるいは生活圏の問題。それから、さらに 1 - 3 では、財政の問題ですね。財政の問題を聞いていると、どうも暗い気持ちにしかなくなってくるのですが、そのへん、いろいろお話いただいたと思います。

最初に申し上げましたように、私をご報告申し上げたのと、八戸リーダーの資料に基づいた報告ありました点に関しまして、御質問でも御意見も構いません。何でもよろしく願いいたします。

何かありますでしょうか。

平出委員、いかがですか。

(平出委員) 1 つ、今回も会長はじめ、事務局の方々、ご訪問いただいて、本当によく精力的に状況、各首長さんの意向を汲み取ってきていただいて、本当にありがとうございました。

今別の小鹿町長は、ステップを踏んで、外ヶ浜のようにステップを踏んでということについて

は、あまり考えないで、独自に環境を整えば青森市との合併と、こういう意向ですか。

(末永会長) 私の感触では、全く今おっしゃった通り、外ヶ浜町との合併は考えていない。とにかくまず合併あるならば、将来的に青森市との合併があるということです。

ですから、例えば、外ヶ浜町とか蓬田村がどう動こうが、それとは関係なく、やっぱり青森市との合併を考えたいというご意向だと、私は認識しております。

(平出委員) ありがとうございます。

それからもう1つ、蓬田の古川村長さんですが、財政だけの事情で合併というのではなくて、様々な生活圏、あるいはコミュニティ、そういうものをというきちんとある程度やってからという、こういうことのようなのですが。

(末永会長) と申しますか、例えば、これまで、例えば、昭和の大合併の時には、時には指摘されたことですが、要するに大型合併しますと、特に周辺の集落、そういった所が更に過疎化したり、あるいはそれに伴ってコミュニティの崩壊が出てくる。従いまして、合併ということが、今やれば、蓬田村の中の集落等々も同じような轍を踏むことになるのではないかと。私はだから、そういうことが非常に可能性があると考えるので、まず合併というのは、すぐには踏み出せないんだというご意向ということですね。

さらにいいますと、その点を受けて私は、確かにそこまで分かっていたら、私も昭和の大合併の時、例えばいわき市の事例なんか、それなりに知っておりますから、そういったところで、じゃ、何故そうなったのか。これからの新法下における合併というのは、多分、こういうことまで含んで、十分にコミュニティの問題、これは我々も第4回目か5回目で議論したことがありますが、この審議会において、そういったものの崩壊とか、そういうふうにならないような形における、これは言ってもなかなか大変かもしれませんが、そういうふうな形での合併というものは有り得るんじゃないかというようなことで、若干、意見の交換をさせていただきましたが、古川村長さんとしては、そういう危険性が非常に強く感じられるのでということだということです。

(平出委員) ありがとうございます。

それから、今、3町村の概況を伺って、特に財政の事情というのは、この3町村とも大変に厳しい状況にあるわけですし、この中で、こういう形でもってリストラをやって、少しでも財政の健全化を同時にやっているという、そういう風なことは感じられますか。

(末永会長) それは、データの的にきちんとその後確かめたわけではございませんが、3町村、特に、ずばり申しますと、今別の町長さんは、殆ど、その御説明、1時間ちょっとおりましたが、財政はこうすれば将来が見えるんだということは非常に力説されたのは確かです。ほかに、森内町長さんにしろ、古川村長さんにしろ、やはり三位一体改革の中で大変厳しくなってきたということの中で、財政問題をどう今、とにかく合併ということ、それを抜きにしても、今、単独で財政をどうするかということは、それぞれ大変お考えになっているということだったと思います。

ですから、本当に大変厳しい中において、3町村長さんともご努力されている。それぞれのやり方ではありますが、そういうことだと思えます。

ただ、平出委員も御承知のとおり、本当にある町長さんがおっしゃっていましたが、今の構造改革で三位一体改革の中で、頑張れば頑張るほど、また交付金が下がってくるということもありまして、ちょっと結論を先取りしていいますと。従いまして、端的に申しますと、努力してもやはりある程度の限界はあるのかなと、私はその時に思っておりました。ちょっと申し上げたこともありました。

(平出委員) ありがとうございます。

3町村とも、この財政の中で非常に将来を考えますと、非常に暗いのは、これは譲与税は入っていないわけですが、地方税が年々縮小しているわけです。これだと、もっと何かをやらないと、大変になるなど。そういう印象ですね。

(末永会長) おっしゃるとおりで、本当に人口は減っていつている。特に、生産年齢、こういったところが減っていつている。産業も元々弱いのに、更にこれがかかり衰退していつておりますので、本当に努力はされているのはよく分かりますが、今、平出委員がおっしゃったとおり、地方税といいますが、自前の税は、非常に減っていくだろうし、同時に交付金等々もこれも基本的には減っていくということで、本当に厳しい状況だと思えます。よろしいでしょうか。

今、平出委員から、私に対する質問ばかりではなかったのですが、私の質問であると捉えまして答えさせていただきましたが、杉澤委員、藤川委員、良原委員、何か質問、あるいは、辻先生。特に、資料1 - 3なんかを見ていると、ある意味で絶望的にならざるを得なくなってくる場所もあるのですが。何かコメントをよろしくをお願いします。

(辻委員) 細かい所3つと、大きい所1つ聞きたいのですが。

1つは、今、話題になりました地方税及び地方交付税の、特に来年度のことなんですが、来年度も今、大体出ていると思いますが、今年度の予算の分ですか、大体交付税の方も出てきていると思うんですが、多分、地方税は今回改正がありましたので、今年は増えると思うんですね。ただ一方で、地方交付税の方が、特にこの所、普通建設事業を抑えているとすると、通常の間ゆる自然体ベースでかなり減ってきている可能性はありますよね。直近の所の数字で見た場合に、それぞれ3町村の地方税及び地方交付税の動向がどうなっているのかというのが1点です。

それから、2点目としては、これは、給与、定数関係の方で、3団体は、給与の構造改革はやっていると思うんですが、それを通常通りやっているかどうかということ。それにあわせて現給保証の取扱いをどうしているか。あわせて、集中改革プランの策定状況と、それにおいて22年度までの職員の削減目標、これが退職補充を前提にどのくらい削っていく計画になっているのかということを知りたい。

参考までに、公営企業が今別にしても結構多いんですね。これは、主に何が入っているのかということをお聞かせいただけたらと思います。これが、ベーシックなところですよ。

それから、あと2つは、比較的大きめな話になるのですが。仮に、ここを将来的に新幹線が通って、新駅などが出来てきた場合に、勿論、県なり、JRなりでやっている所もあるのですが、同時に必ず町村負担分が発生しますし、第3セクター鉄道の扱いはどうなるか分かりませんが、その負担金等も生じてくると。このへんについて、当該町村がどういうふうに、今のところ

る考えているのかと。負担しきれぬのかどうか、というのが3番目です。

4番目、これが1番大きいのですが。クタクタになった所で、仮に青森市が合併してくれたらくれるでいいかもしれませんが、その旧法下ですと、旧合併法ですと、青森市にとってもメリットがありました。現新法下も、前よりは低いですが、障害になるほどのものはないと思います。仮に、この新法のメリットもさらに縮小してみた場合に、この2町村を仮に青森市が合併するとすると、青森市から見た場合の合併のメリット。これが基本的に一組の動向なども含めて何か想定できるのか。この4点をお伺いしたいんですが。

(末永会長)では、リーダー。4点目に関しては、後で私もコメントしますけども。

(県：八戸GL)まず、それぞれの町村の地方税、交付税の見込み、それから、集中改革プランにおける職員数の給与構造改革の面をそれぞれお話ししたいと思います。

まず、今別町でございます。今後、19、20、21、この3年間、地方税の見込みでございますが、19年度は地方税は増えるという状況で10%くらいの伸びは見ております。

20、21、こちらはほぼ横這いといたしますが、今別町の場合は21年度5%近く減になるということで謳っております。その分、交付税を多くみればよろしいんですが、19年度はある程度地方税が増えた分、交付税が減るという見込みはたちますけども、20年、21年度、こちらは地方税が、どのくらい伸びるかという見込みは立ち難く、逆に交付税も伸びは見込めない。これも、3%ほど減に見込まざるを得ないということで、非常に収支は厳しいという状況になっており、地方税の減は大体3%減、20年度、21年度、3%減と見込んでおります。18年度、今年度の交付税の見込みは、マイナスの4%となっております。

税収もマイナス9.5%見込んでおりますので、ダブルパンチといたしますが、税収も増えない、交付税も下がってきたと。

(末永会長)それで下がって、10%仮に上がってもたいしたことがない。

(県：八戸GL)ですから、なかなか地財のようなマクロのパターンは、なかなか小規模団体にはそのままあてはまらないという状況ですね。

今別町の給与構造改革の面ですが、ここは一般職給与2%から5%カットしております。町長給与50%カットということで、人件費の削減にはかなり目一杯取り組んでいるかと思えます。職員数も退職者不補充ということで、年々減少を見込んでおります。その分、人件費の比率は、このまま推移すれば、下がっていくのかと。経費そのものも下がっていくのかなと。ただ、比率は分母の関係で財政規模も下がっておりますので、比率的にはそんなに差がないのかなという気はいたします。

引き続き今別町のお話をしますと、公営企業、これは水道事業会計がありますが、今年度から水道事業会計は法適でやっておりますが、それを簡易水道に切り替えまして、簡易水道事業会計でやっておりますが、こちらちょっと赤字の状況でございます。さらにここは、特別会計では、特別養護施設、介護サービス、デイサービスがございますし、また、国保施設会計というのがございまして、そちらも全て赤字の状況で、こちらの改革が必要だなという状況になっております。

奥津軽駅、この負担金はおそらくまだ金額的にどのくらいになるか見込んでいないと思います。

続いて蓬田村の状況を申し上げますと、蓬田村も市町村税、今年度の状況では、今年度は地方税が3%の減、その分、交付税が3%増ということで、今年度はそのへんはそんなに交付税は減らなかった。逆に増えたという状況でございます。

来年度は、市町村税、今別同様10%増を見込んでおります。逆に、地方交付税はマイナスの5%。20年度、21年度もそれぞれ5%ずつマイナスを見込んでおります。税収の場合は、19年度、来年度は10%増を見込んでおりますが、20年、21年度は、増を見込めないということで、ほぼ横這いに推移、ですから、20、21年度、税収は増えないが、交付税は減っていくという見込みをしております。

こちら、行財政改革は徹底して取り組んでいるとは思いますが、特に人件費、一般職給与は、ここも2%から5%カットしております。どうしても、先程の今別も蓬田村も、退職者はここ2、3年で大分増えるのですが、減るだけで行政の基礎サービスを賄うために、採用はしなくてもいいのかどうか。非常に行政サービスの水準を維持するにも大事な点なのですが、どうしても年齢構成が高いものですから、平均給与がなかなか下がっていかない。人も増やさず、退職者だけでやっていけるかどうかというのは、非常に大きい問題だと思います。ここも職員数は、集中改革プランでは、ずっと減少を見込んでおります。

蓬田村の公営企業は、水道がございまして、ここは特段大きな、特別会計の赤字はございません。

続いて、外ヶ浜町です。今年度は、外ヶ浜町は市町村税、ほぼ昨年度同様横這いでございます。逆に交付税は5.6%減、これは、合併しても減なのかと思っているむきもあるかもしれませんが、こちらは旧平館、旧三厩村、こちらそれぞれ個々に算定しておりますので、これは合併前と変わらない算定でやっております。それでも5%の減となっております。

来年度は、税収は7%増、逆に交付税は7%の減と見込んでおります。ここも同様、地方税は20年度、21年度、増は見込めない状況で、ほぼ横ばいで見ておまして、逆に交付税はそれぞれ4%ほど下がっている。ですから、非常に収支状況は厳しいと言えらと思います。

ここも一般職給与2.5%から5.5%のカットを実施しております。三役も10%から20%給与カットしております。

ここは、やはり現在3町村合併して、非常に職員数が多い状況ですので、今後、かなりの退職者は見込まれておまして、類似団体にいかに近づけるよう職員数を減らしていけるかというのが大きな課題かと思っております。

外ヶ浜町、公営企業の場合でいいますと、外ヶ浜中央病院、そちらが経営は17年度の経営を見ますと約400万の赤字でございまして、ここはほぼトントンで何とかやっていると。不良債務はございません。このまま推移していけば、何とかやっていけるかと思っております。

1番心配されるのが下水道事業でございます。平館、三厩、こちら下水道事業をやっておりましたので、そちらの元利償還、あるいは加入率の問題で、かなり一般会計の負担も今後出てくるのではないかと考えております。

蟹田地区の下水道事業は、今、休止している状況でございまして、いつ再開できるかという状況かと思っております。

青森市から見た合併メリットはあるのかということでございまして、広域行政の核として、現在共同処理の事務をやっています。ごみ、し尿、あるいは消防の共同事務に関しても、各町村の負担というのは、凄く高くなっておまして、その分、どうも共同事務処理のメリットというも

のがなかなか今、現れてきておりません。ですから、これを抱えることによって、さらに効率的な広域行政が展開できるのではないかと思うのですが、  
以上でございます。

(末永会長) よろしいでしょうか。

最後の青森市とのうんぬんというのは、現実的には今、八戸リーダーもおっしゃったとおり、なかなか簡単にはいかない。少なくとも、新法下においていくような課題では決してない。御承知のように、青森市は浪岡町と合併しまして、あれはある意味で中核都市、30万の、それを目指してやったわけでありまして、かなり息切れしている。従いまして、今後この3つの、あるいは2つ、あるいは1つか分かりませんが、それらを抱えていくというのは、かなりしんどいという印象です。あるいは、多分、現実的にも青森市がソロバン勘定と申しますか、メリットとおっしゃいましたので、もしそうだとすれば、そういうことになるのかなという状況です。  
では、藤川委員、どうぞ。

(藤川委員) 私、この上磯の3町村、相当厳しいと思います。25年後には人口が半減するというような統計、推計で出ていますが、非常に高齢化率が高くなるだろうと。それから、産業構造的に、漁業と林業だったのでしょうけれども、林業が殆ど成り立たなくなっているということで、非常に将来的に、例えば、県内、大鰐であるとか黒石であるとかむつであるとか、財政的に厳しい所がありますが、ここの3町村についていえば、産業構造的にも相当厳しいだろう。果たして、町村として成り立っていけるのか。限界集落という言い方もありますが、とにかく非常に厳しいのだろうなと思います。今後どうするかということは、非常に、今、この当該3町村だけではなくて、県も含めて考えていかなければいけない課題だろうと思います。

今、会長からも話もありました、この3町村、将来的には青森市との合併をというような意向も持っているわけですが、合併というのは、当然相手があることでありまして、そこは青森市も、私も会長と同意見ですけども、これも、完全に私の推論でしかありませんが、まず青森市は中核市になって、これ以上、つまり大きくなる必要がないと申しますか、非常にこの上磯3町村と合併した場合、先程から下水道の負担が出てまいりました。非常にインフラ整備に金がかかるという現実問題としてあると思います。今、青森・浪岡で合併して、それなりのインフラ整備が進んでいる中で、新たにこういう所を持つ必要と申しますか、多分、市民もなかなか納得し難い部分があるだろうと思います。そういう意味で、果たして、将来的にこの3町村が合併したいと思ってもなかなか難しいということになると思います。

一方で、この3町村がどうして生き残っていけるのか。これは、ここの合併の場だけの話してはないのしょうけれども、もっと真剣に考えていかなければいけないのかなと、私個人は思っています。

(末永会長) 大変ありがとうございました。

先程、辻委員からも御質問に対しても、藤川委員も、今、1つお答えいただきました、青森市との合併というのは、多分、現実的ではない。将来は分かりませんが、暫くは現実的ではないし、難しいということですね。

そういう中において、この3町村、ほかにもありますが、どうするかということをやはり考え

ていくべきだろうという御意見をいただきました。

どうもありがとうございました。

良原委員、それから杉澤委員、いかがでしょうか。

(杉澤委員) もう一度お伺いしたいんですが、何故、今別町は外ヶ浜とかは考えられないで、合併するなら、青森市だというような、これは感情的な問題なのでしょうか。

(末永会長) 感情的だというのは、それはちょっと分かりません。

(杉澤委員) そうですか、分かりました。

私の意見としましては、この3町村、同じ問題を抱えております。少子化、高齢化、人口減少、財政。それから、通勤や通学の日常生活圏の状況も結構行き来をしておりますね。であれば、もっと3町村、もっと首長さん達は、真剣に3町村のことを考えて話し合いをすべきではないのと思います。

(末永会長) どうもありがとうございました。

住民の意向ですね。確かに、我々、今回と申しますか、これ何回か、いろんな町村を回らせていただきましたが、どうしても住民がどうなのか、あるいは、議会がどうなのか以前に、首長さんのご意向をまず確かめているということですので、杉澤委員が言われたように、じゃ、住民が本当にどういうふうな考えなのか。住民アンケートや何か、確かにありますが。それで本当に果たしていいのかどうか。そのへんも、これから合併、ここで審議していくということは、十分に考えなきゃいけないなというふうに思っています。今後、本当に住民、あるいは議会、特に、間もなく統一地方選もありますので、それ以降また大きく変わってくるのかなという気もいたしますので、その時は十分考えていただきたいと思います。

ありがとうございました。

良原委員、どうぞ。

(良原委員) まず、1つ質問です。外ヶ浜町で議員の選挙が既に行われて14名が決定しました。その際に、候補者の方たちが、例えば合併に関して何か言っていたのか、どういうコメントをされていたのかというのをちょっとお聞きしたいと思います。

(末永会長) リーダー、いいですか。 外ヶ浜町に関して。

(県：八戸GL) この間、選挙が終わりましたので、外ヶ浜町議選は14名になりました。それぞれここは選挙区を設けまして、蟹田地区、平館地区、三厩地区で選挙を行いました。

ちょっと、それぞれ公約として、合併したばかりですので、次の合併はどうかという公約はなかなか聞こえてきませんが、恐らくもっぱら、今後の行財政運営、合併したばかりでどう円滑にやっていくか、合併効果をどう表していくかということが公約になっていたのかな、という気はいたします。

(良原委員) あまり合併のことについては触れていなかったというところでしょうか。

最近の新聞で、「大合併、その後新市町リポート」というものを読ませていただきました。それによりますと、外ヶ浜の飛び地問題で子育て環境が厳しくなったとか、やはり飛び地は解消して欲しいとか、そういう住民の思いがちょっとリポートの中に出ておりました。会長さんがお訪ねになったとき、外ヶ浜の町長さんが、飛び地に関しては不安とか苦情がないよう配慮しているとおっしゃったようですが、やっぱり飛び地というのは、行政効率の問題もありますが、住民感情からいっても非常に不自然であると思います。以前、辻先生のコメントに、住民が慣れる前にある程度飛び地というのは解消した方がいいのではないかと、というお話もありましたので、飛び地問題の解消の点からも、首長さんたちが、いまのところ合併を考えないというのが、非常に厳しいなと思いました。本当にそれで良いのかなと。

合併したくないという気持ちも、大事にしくちゃいけないとは思いますが、資料を見れば見るほど、本当に行財政の厳しさが出ております。上磯のことで例えば、荒波、寒風が吹きすさんでいるわけですが、この荒波に耐えていくとすれば、今の一時的な辛抱で、少しはいいのかもしれないが、先々住民のことを考えれば、やっぱりこのままではいけないのではないかと思います。

とりあえず、蓬田村は、例えば、地域のコミュニティを大事にしていく、福島県矢祭町の例もありますので、本当にいまのままでやっていけるのかどうか、一つの見本を示していけるのかどうかということもありますが、外ヶ浜町と今別町についてはこのままでいくのはどんなものかと考えて欲しい。このためには、やっぱり県も一緒に知恵を貸して考える時期なのではないかと思っております。広域市町村圏、広域行政では限界があるということで、この合併推進となっていることに思いを致せば、今いろいろ出てきた中で、一緒に考えていく時期かなと思いました。

(末永会長) ありがとうございます。

最初に良原委員がおっしゃられた、飛び地問題に関しましては、この審議会でも1万人以下の次には飛び地等々も十分審議しようということですので、本当に審議しなければいけないと思いますし、現実問題として、外ヶ浜町長は、飛び地になった三厩については、いろんな不満とか不安があるけども、十分今のところは頑張っているというふうにおっしゃっていましたので、私達は額面通りとりあえずご報告申し上げます。

いずれにしろ、今、おっしゃられましたように、感情的なもつれとか、私はそういうものは勿論、絶対、頑固無いんだという立場から、いろいろ御意見を伺っておりますが、やはり、これからのことを考えれば、将来的なことを考えれば、今、良原委員は、やっぱり上磯地区の合併ということも1つ視野に入るんじゃないか、あるいは、そういったことをこの審議会でもサポートして、あるいは首長、あるいは住民、議員、そういう方々のコンセンサスを得ていくべきだろうというご意向だとお伺いしました。

どうもありがとうございました。

大体、そんなことでありますが、そのほか特に何かありますでしょうか。

それでは、全体的なまとめになるかどうか分かりませんが、今までの御意見をお伺いしますと、先程、八戸リーダーから、地域の将来、特に、財政の問題、人口の問題、そして産業の問題に関しましては、極めて厳しいというふうなことも示されました。

あるいは、日常生活圏や何か、やっぱり青森市、あるいは上磯の3つがかなり結び付きがある

ということも逆に示されたわけです。そういうことを考えますと、将来的には、青森市と上磯地区、あるいは、東青という所があるのですが、これはちょっと今まで、人口が2万近くありますので、議題にもしておりませんが、そういった所も、どう考えていくかということが問題になるかと思えます。

現実問題として、やはりこれは委員の皆さん方、多分、青森市との合併はすぐには考えられないということだと思います。そうしますと、現実的な選択の仕方として、外ヶ浜町森内町長さんがおっしゃっていたように、上磯地区の3つがまず合併する。そうすると、飛び地も無くなりますので、そういったことがいいのではないかと。そしてその後に、近い将来的に青森市との大きな合併ですね。これは、御承知のように、県の方でも将来の6つにグルーピングしたものが示されておりますが、それを考えても、青森市の合併というものが将来的には考えられていくのではないかと。

しかし、現実問題としては、やっぱりこの3つの町村の合併というものが、現実的に一步進まなければ、なかなか大変ではないかなという気はします。私達が回らせていただいて、この3つの町長さん達の意向が、かなり違っているというのが現実問題であります。こういう中において、我々があえて、ここで、今すぐに、やっぱりということでフレームを示すということも、これはちょっといかがなものかと思えます。

というのは、1つは統一地方選挙があり、議員の意向、あるいは住民の意向等もやはり十分に勘案しながら考えていかなきゃいけないのではないかと考えているところです。

御承知のように、例えば、私も若干関わったのですが、3月15日にこれは非常に青森県では画期的だと思いますが、横浜町において住民の方から合併を考えようという動きが出て、会が出来たんですが、そのほぼ1週間前に私の所にその会長になりました柏谷という人から、電話が掛ってきました、我々は、合併の問題を考える。彼は、ずばり、横浜町・六ヶ所村といったんですが、ついては、来て講演してくれないかというので、3月15日しか空いていませんでしたので、3月15日に行きました。しかし、その時、横浜町と六ヶ所村の合併ということでは私は喋れない、これからの地域づくりと、こういう小さな自治体がどうするかという、そういったことについては基本的に喋る。その中で、合併というものもまた喋れる。特定の方には喋れないということで、講演を引き受けて行ってまいりました。

その時に、実は僅か1週間くらい前に、3月15日にやるということになったのですが、60人以上の住民の方々が夜6時から集まっておりまして、そこでこれから自分達で町づくりをし、かつ、また合併を考えていくということで決めておりました。おそらく、こういう動きも十分に、多分、これからは首長さんや議会、もちろんこれが大事なのですが、同時に、そういう住民の動向というの、多分、これからは少し出てくるんじゃないかと思えます。

従いまして、この3町村に関しましては、今日ここで結論を出すのではなくて、もうちょっと動向を見て、選挙等、県議選も1つ絡みますが4月8日、そういったことも見ながら、次回以降において、少し我々の方として、じゃ、こういうフレームで考えるべきだ、第1段階ですね。それもたった1つじゃなくて、2つ出してもよろしいわけで、あるいは、複数出してよろしいわけでした、そういう形において議論していきたいと、私としては、今、皆さん方の御意見を聞いていて思ったんですが、いかがでしょうか。

次回以降、第10回以降、来年度になります、少し明確な形において出して、皆さん方と考えていくと。その時には、今、良原委員が言われましたが、我々は我々の立場として、やっぱりき

ちんとしたものを出す必要性もあるだろう。それをもって、首長さんや議員の方々、あるいは住民との話し合い等々をやっていくという必要もまた出てくるのではないかと、私は個人的には思っていますが、いかがでしょうか。

では、今回は、そういうことにおいて結論は出さないで、次回以降、今までも既に回ってきた所がありますので、そのへんも含めまして、いわゆる野辺地と上北地方等もありますし、あるいは既に首長さんの意向があまりにもはっきりしているので回っていない所もあります。あまりにもはっきりしておりますので、そういったことも含めて、少しここで合併のあり方、あと2年ですので新法も、その中において、これからの新しい自治体づくりと。あるいは、それに伴う青森県のあり方というものの中で、皆さん方とフレームを考えていきたいということにしたいと思えます。

よろしく、そういうことでお願いいたします。

## (2) その他

(末永会長) それでは、1番目の議題は終わりました、2番目のその他ということでございますが、これに関して、何かございますか。

なければ、市町村振興課の方から、事務局の方から、議題といいますか、ご報告を。平沢課長から。

(県：平沢課長) 私から御説明をさせていただきたいと思えます。

今回、第9回ということで、今年度最後の会議を開催させていただきました。来年度の、現時点では県の方針といいますか、考えについてお話をさせていただきたいと思えます。

昨年10月、合併の構想を策定して、その中で、2つの地域の組み合わせ、平川市と田舎館村、それから五戸町と新郷村について示したわけですが、現時点で具体的に合併協議がなされるに至っているという状況にはなっておりません。県としては、両地域において合併協議会が設置されて、協議がなされるように引き続き積極的に支援をしていきたいと考えております。

それから、19年度には、これまでこの審議会で審議いただいてきております横浜町、風間浦村、佐井村、今別町、蓬田村、外ヶ浜町、これらを中心にして、関係市町村の意向等を更に踏まえながら、新たな構想対象市町村の組み合わせを検討していきたいと考えております。

更に、合併新法施行3年目ということになります。これは5年間ですので、そのうちの3年目にあたるわけですが、その時期も十分考慮して各地域での気運の醸成、住民理解をさらに深めていくといった活動、例えば、出前講座ですとか、シンポジウムなど、啓発事業をさらに積極的にやっていきたいと考えております。

先程申し上げました検討対象市町村の横浜町、風間浦村、佐井村などにつきましては、4月に統一地方選挙で議会議員が改選を迎えますことから、この選挙後のそれぞれの状況について把握して、それらを踏まえて具体的な検討をさらに進めていきたいと考えております。

次回の第10回ということになりますが、こちらについての見通しですけれども、統一地方選挙の後、6月にまた県知事選挙がございまして、その付近にも市町村関係の選挙もいろいろありますけれども、その後、新体制が、それぞれ市町村でもできてくるかと思えますので、ある程度落ち着いたころ、合併の状況もまた動きが出てくるかと思えますので、7月上旬とか、そのあたりに開

催をしていきたいと考えております。日程調整は、また別途させていただきたいと思いますが、現時点で県の基本的な方向性ということでお話しさせていただきました。

(末永会長)今、5点にわたって。最後の5番目は、次回のということですので、1から4までに関しまして、何か御意見、御質問ございますか。

基本的には、平川、田舎館、五戸、新郷ですね。今後とも積極的に支援したいと。さらに、今、審議中のこれまで私も回らせていただきました、そういった所は、当該町村の意向を踏まえながら、あるいは住民等の動きを見ながら、新たな組み合わせ等を検討していきたい。

さらに、合併というものがどうなのかということ住民等にも知っていただくということで、出前講座等、こういったものを準備するということですね。

それからいくつかの村、町においては、新しい体制があるので、そういったところも把握しながら、具体的な検討をしたいという4点でありました。

よろしいですか、そういう方向で。

では、そういうことで、今、県の方の方針が示されましたので、その方向で、さらに議論を進めていきたいと思えます。

皆さん方から特にありませんでしょうか。

それでは、特に御意見がないようですので、次回の第10回目は、今、平沢課長からありますが、とにかく4月8日は県議選、それから地方選挙もあります、6月3日が県知事選になりますので、多分、それが落ち着いて7月上旬あたりがよろしいと思えますので、また、皆さん方のご意向を聞きながら、そのころに第10回目ということになると思えます。

ただ、第10回目以降、一応、これまでもいくつかの町村を回りましたし、かなり意向も分かりましたし、あとは住民等の意向も十分捉えながら、我々としては望ましい合併のあり方というよりも、望ましい市町村のあり方というものを基軸にしなが、合併も1つの方策として十分に組み入れながら考えていきたい。来年度は、そういう方向で皆さん方と議論させていただきたいと思っております。

よろしく願いいたします。

そういうことで、今日の第9回目は終わりということになりますが、何か県の方で。部長、何か。

(県：海老原部長)それでは、閉会ということで一言ご挨拶を申し上げます。今年度は、6回審議会を開催させていただきました。また、会長を始め、各首長の意向調査ということで、精力的に調査活動もさせていただきました。6回というと、大変な回数でございますので、熱心に御審議いただいたことに対しまして、感謝申し上げます。

新年度は、今年度策定しました構想に基づいて私どもしっかりやっていかなければならないと思っております。

旧法下での合併が進み、40市町村になりました。合併後の首長とお話しをする機会がありましたが、ちょうど予算編成をやっている時期で、大変苦労したという話を伺いました。ただ、予算なり、新年度の施策を議論する中で、例えば、隣の地域でやっているとてもいいことを、他の地域でもやっていくと、ひとつ新しいことができるのではないか。あるいは、他の地域には、ある強みがあって、我々の方には、違う強みがあり、それを補い合っていくことによって、何かい

いことができるのではないか、そういった議論をしているということも伺っております。職員の間でしっかり議論していくとか、地域の住民を巻き込んでいくとかですね、いろいろ御苦労が多いわけですが、必ずこの苦労が何年かすれば、実るのではないかと考えておりますし、また、そうなるようにしっかり支援をしていかなければならないという意味で、この新法下の合併も少し長い目で見れば、大変重要なことだと思いますし、また、地域の盛り上がりがないのでは、うまく行かないということもありますし、引き続き、この審議会で御議論いただいて、それをしっかりマスコミのみなさんにも報道していただきまして、地域全体で考えるようなことをやっていきたいと思っておりますので、新年度も引き続き、御審議をよろしくお願いしたいと思います。

本日は、年度末のお忙しいところ、本当にありがとうございました。

(末永会長) 私も本当に一言、会長として、本当に事務局の方に大変お世話になりましたので、委員の皆さんを代表しましてお礼を申し上げて、今日はこれで終わりにさせていただきたいと思えます。

どうも本当にありがとうございました。

### 3 閉 会

(司会) 以上を持ちまして、第9回青森県市町村合併推進審議会を閉会いたします。どうもありがとうございました。